学校番号	J1003

令和５年度　社会科

学年	1	週授業コマ数	3	授業時数(45 分)		標準授業時数(50 分)	105
使用教科書	中学生の「地理」世界の姿と日本の国土　（帝国書院） 中学社会　歴史的分野　（日本文教出版） 中学校社会科地図（帝国書院）						
副教材等	ニュースタイル ビジュアル地理Ⅰ・Ⅱ　（東京法令出版） 中学歴史資料集　学び考える歴史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会科を暗記科目だと思っている人がいるかもしれませんが、決してそれだけではありません。もちろん個々の人名や語句を覚えることも大切です。その上で、覚えた知識をもとに、歴史なら現在との違いやつながりを考察したり、地理なら世界の国と日本を比べたりすることができるようになっていきましょう。社会科の知識は自分の生活に活用していくことができます。普段からニュースに関心を持ち、新聞を読むように心がけましょう。また、いろいろなテーマや学習方法を決め、主体的に学習したり、各自が地域に出かけて調べ学習をしたりすることもあります。授業の中では、常に「なぜだろう？」という疑問を持ち、積極的に意見を発表しましょう。また、他の人の意見も聞くようにして、思考を深めていきましょう。３学期には「探究活動」として１人が１か国を担当して、「世界のさまざまな地域調査」を行います。楽しみにしていてくださいね。１年間、一緒にがんばっていきましょう。

・地理的分野と歴史的分野について１年間学習をすすめていきます。
・授業では、課題に対して、諸資料をもとに自ら考えたり、調べたりしたうえで、周りの人と共同で考える活動を行います。
・テーマを設定し、調べたり意見を発表したりする活動も行います。
・授業中のノートは板書を写すだけではなく、自分の意見をメモや他者の意見のメモを取り、自身の思考の変化を記録しておきましょう。
・探究活動として「世界のさまざまな地域の調査」に取り組みます。「課題設定」「調査・分析」「まとめ」「発表」の手順で探究活動の基礎・基本を学びましょう。探究活動は３年間「都道府県調査」「卒業レポート」と継続します。

2　学習の到達目標

社会的事象の地理的・歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することをめざす。

【地理的分野】

(1) 我が国の国土および世界の諸地域に関して、地域の諸事情や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技術を身に付けるようにする。

(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論したりする力を養う。

(3) 日本や世界の地域に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

【歴史的分野】

(1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとと

もに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に着けるようにする。
(2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
(3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の国土の歴史、現代の政治・経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したり、それを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	第１章　世界の姿	1 私たちの住む地球 2 国名と位置 3緯度と経度 4地球儀と世界地図の違い	a:世界の６つの州と主な国の位置と名称と緯度と経度のしくみを理解したり、地図帳のさくいんや統計資料を活用したりしている。 b:国名よ国境線などの特色からその国の歴史や文化などを考察している。 c:地図や地球儀に親しみ、世界の地域構成や位置の表現方法について主体的に追及している。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

	第2章　日本の姿	1　世界の中での日本の位置 2　時差でとらえる日本の位置 3　日本の領域とその特色 4　都道府県と県庁所在地	a:世界の中での日本の位置や、日本の領域と領土をめぐる問題、都道府県について理解し、日本の位置を示したり時差を計算し時刻を求めることができる。 b:世界の中での日本の位置や広がりや日本と世界各国の時差、日本の領土・領域について多面的・多角的に考察している。 c:世界の中での日本の位置や広がりについて関心をもち、それらの事象について主体的に追究・解決しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
一学期	第1章　人々の生活と環境	1　世界のさまざまな生活と環境 2　暑い地域の暮らし 3　乾燥した地域の暮らし 4　温暖な地域の暮らし 5　寒い地域の暮らし 6　高地の暮らし 7　世界各地の衣食住と変化 8　人々の生活と宗教	a:世界各地の人々の多様な生活と環境について、気候や地形などの自然条件と衣食住や宗教などの社会的条件を関連付けて理解している。 b:世界各地の人々の多様な生活と環境について、自然条件や社会的条件と関連付け、多面的・多角的に考察している。 c:世界各地の人々の多様な生活と環境に対して関心をもち、主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期	第2章　世界の諸地域	第1節　アジア州 1　自然環境 2　農業・文化と経済発展 3　経済成長を急速に遂げた中国 4　最も近い隣国、韓国 5　経済発展を目指す東南アジア 6　産業発展と人口増加が急速に進む南アジア 7　資源が豊富な中央アジア・西アジア	a:多様な自然環境や文化、産業がみられるアジア州について、地域ごとにその特色を理解し、地域間の違いからアジア州全体の地域的特色を理解している。 b:アジア州の国々が急速な経済発展をしている理由を、多面的・多角的に考察し表現している。 c:急激な人口増加と経済発展が、アジア州にクラス人々に与える影響や、それによって生じる課題を、主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

二学期		第2節　ヨーロッパ州 1　自然環境 2　文化の共通性と多様性 3　EUの成り立ちとその影響 4　農業とEUの影響 5　工業とEUの影響 6　EUが抱える課題	a:ヨーロッパ州の地域的特色を自然環境、文化、産業の特色に着目して大観し、自然環境や文化にみられるヨーロッパの共通性と多様性を理解している。 b:EU統合の背景と課題、影響などについて、ヨーロッパの地域的特色と関連付けて、多面的・多角的に考察し表現している。 c:日本との比較を交えながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、ヨーロッパ州の課題を主体的に追究しようとしている	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
		第3節　アフリカ州 1　自然環境 2　歴史と文化 3　特定の輸出品に頼る経済 4　課題とその取り組み	a:アフリカ州の人々の生活や産業の特色を理解し、アフリカ諸国とヨーロッパ諸国のとの文化や経済的な関係を、資料を用いながら歴史的背景を踏まえて理解している。 b:輸出品が特定の農産物や鉱産資源に偏るようになった原因を追究し、その問題点を多面的・多角的に考察し、表現している。 c:ヨーロッパ諸国との関係やモノカルチャー経済に着目しながら、アフリカ州の課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		第4節　北アフリカ州 1　自然環境 2　移民の歴史と多様な農産物 3　大規模な農業と多様な農産物 4　世界をリードする工業 5　生産と消費の問題	a:世界をリードし続けているアメリカ合衆国において、民族の多様性や、広大な国土を利用した農業、変化し続ける工業について理解している。 b:北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこにクラス人々の生活の様子を基に、多面的・多角的に考察し表現している。 c:世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化に着目しながら、それに関わる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

二学期		第５節　南アフリカ州 １　自然環境 ２　多様な民族・文化と人々の生活 ３　大規模化する農業と成長する工業 ４　ブラジルにみる開発と環境保全	a:多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた南アメリカ州の経済成長について理解するとともに、発展の一方で経済格差や環境破壊などの問題が生じていることを、本文や資料から調べ、まとめている。 b:ブラジルで経済成長が続いている要因と熱帯雨林の減少の背景を関連付けて考察し、その解決策を多面的・多角的に考察し表現している。 c:近年の経済成長に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と農地や鉱山の開発による環境問題について主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
三学期		第６節　オセアニア州 １　自然環境 ２　移民の歴史と多文化社会への歩み ３　他地域と結び付いて発展する産業	a:オセアニア州の自然環境の特色と植民地支配されていた歴史を理解し、自然環境と結び付く産業や、多文化社会による移民と先住民との共生などの地域的特色を理解している。 b:オセアニア州の国々が、ヨーロッパの国と密接な関係を保ちながら、近年アジアとのつながりを深め、多文化社会を進めている理由や課題を多面的・多角的に考察し表現している。 c:オーストラリアやニュージーランドの多文化社会に着目しながら、オセアニア州の地域的特色や地域の新たな課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	古代までの日本と世界	1 人類の始まりと文明 2 日本列島の人々と国家の形成 3 古代国家の展開	a: 古代までの日本の大きな流れを，世界の歴史を背景に，時代の特色をふまえて理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 b: 古代文明や宗教が起こった場所や環境，農耕の広まりや東アジアとの交流と天皇や貴族の政治や文化の変化などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，古代までの社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し，表現している。 c: 資料から人類が誕生した時代の前後を比較することを通して，古代までの日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
三学期	中世の日本と世界	1 古代から中世へ 2 鎌倉幕府の成立 3 室町幕府と下剋上	a: 中世の日本の大きな流れを，世界の歴史を背景に，時代の特色をふまえて理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 b: ・武士の政治への進出と展開，東アジアにおける交流，農業や商工業の発達などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，中世の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し，表現している。 c: 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して，中世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	J1003

令和５年度　社会科

学年	2	週授業コマ数	3	授業時数(45 分)		標準授業時数(50 分)	105
使用教科書	中学生の「地理」世界の姿と日本の国土　（帝国書院） 中学社会　歴史的分野　（日本文教出版） 中学校社会科地図（帝国書院）						
副教材等	ニュースタイル ビジュアル地理Ⅰ・Ⅱ　（東京法令出版） 中学歴史資料集　学び考える歴史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会科を暗記科目だと思っている人がいるかもしれませんが、決してそれだけではありません。もちろん個々の人名や語句を覚えることも大切ですが、歴史の流れをその当時の事柄を考察し理解することや現代へのつながりを考えることも大切です。また、自分の言葉で意見を発表できるようになることも必要です。自分でいろいろなテーマや学習方法を決め、主体的に学習しましょう。2 年生では「都道府県調査」を行います。一緒にがんばって行きましょう。

・地理的分野と歴史的分野について 1 年間学習をすすめていきます。
・授業では、課題に対して、諸資料をもとに自ら考えたり、調べたりしたうえで、周りの人と協同で考える活動を行います。
・テーマを設定し、調べたり意見を発表したりする活動も行います。
・授業中のノートは板書を写すだけではなく、自分の意見をメモや他者の意見のメモを取り、自身の思考の変化を記録しておきましょう。
・探究活動として「都道府県調査」に取り組みます。「課題設定」「調査・分析」「まとめ」「発表」の手順で行います。調査活動の一環として、都道府県庁などに質問状を送付する活動も予定しています。探究活動は 3 年生でも「卒業レポート」に取り組みます。

2　学習の到達目標

社会的事象の地理的・歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することをめざす。

【地理的分野】

(1)我が国の国土および世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2)地理に関わる事象の意味や・意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論したりする力を養う。

(3)日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

【歴史的分野】

(1)我が国歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2)歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを

説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の国土の歴史、現代の政治・経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したり、それを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	第1章　身近な地域の調査	1　調査テーマを決めよう 2　調査方法を考えよう 3　野外調査を実行しよう 4　結果を発表しよう	a:地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取る技能や、地域調査を行う際の視点、方法を理解している。 b:対象地域の地域的特色や課題をとらえるために適切な地理的事象を取り上げ、それらを多面的・多角的に調査、考察し表現している。 c:調査地域の特色や課題を主体的に追究しようとしている。	都道府県調査	都道府県調査	都道府県調査 観察

	第2章　日本の地域的特色	1　山がちな日本の地形 2　川がつくる地形と海岸や海洋 3　日本の気候 4　日本のさまざまな自然災害 5　自然災害に対する備え 6　日本の人口 7　日本の資源・エネルギーと電力 8　農業・林業・漁業とその変化 9　工業とその変化 10　商業・サービス業 11　交通網・通信網 12　さまざまな地域区分	a:日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源、エネルギー、産業、交通・通信の視点からさまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解している。 b:日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色がどのうように変化し、課題を抱えているか多面的・多角的に考察し表現している。 c:日本の地域的な課題について主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期	第3章　日本の諸地域	第1節　九州地方 1　自然環境 2　人々の生活 3　農業 4　自然環境 5　南西諸島	a:九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色を理解し、九州地方の自然環境を生かした産業や、防災の取り組みについて、さまざまな情報を調べ、まとめている。 b:九州地方において、特色ある人々の生活や産業が成立する背景を、地域の課題などと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し表現している。 c:九州地方について、よりよい社会の実現を視野に地域的特色とともに課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
		第2節　中国・四国地方 1　自然環境 2　人々の生活の変化 3　瀬戸内海の海運と工業の発展 4　農業 5　地域の取り組み	a:地図や資料から、中国。四国地方の交通・通信網による結び付きの変化と、それに関連する産業や生活の変化について理解している。 b:中国・四国地方の結び付きの変化や産業の変容について、さまざまな事象と関連付けて多面的・多角的に考察し表現している。 c:中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に地域的特色とともに課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

二学期		第3節　近畿地方 1　自然環境 2　阪神大都市圏 3　阪神工業地帯と環境問題 4　古都京都・奈良と環境保全 5　林業と漁業	a:地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的背景の保全および、関連するほかの事象を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色を理解している。 b:自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みをさまざまな事象と関連付けて、多面的・多角的に考察し表現している。 c:　近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に地域的特色とともに課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
		第4節　中部地方 1　自然環境 2　名古屋大都市圏 3　東海でのさまざまな産業 4　中央高地の産業 5　北陸の産業	a:さまざまな資料を活用し、中部地方の三つの地域の産業の特色と変化を読み取るとともに、それぞれの自然環境の特色から異なる産業が発達したことを理解している。 b:中部地方の三つの地域において、それぞれ異なる産業が発達・変化した背景について、多面的・多角的に考察し表現している。 c:　中部地方について、よりよい社会の実現を視野に地域的特色とともに課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		第5節　関東地方 1　自然環境 2　多くの人が集まる首都、東京 3　東京大都市圏 4　人口の集中と第3次産業 5　臨海部から内陸部へ　工業 6　大都市周辺の農業と過疎問題	a:関東地方の自然環境や産業の特色を、人口の集中との関わりに着目し、地図や統計、分布図などから読み取るとともに、人口の集中と都市圏の拡大に伴う課題を理解している。 b:関東地方に人口が集中する理由を、第３次産業の発達のほか、他地域や海外との結びつき、自然環境の特色などに着目し、多角的に考察し表現している。 c:　関東地方について、よりよい社会の実現を視野に地域的特色とともに課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

二学期		第6節　東北地方 1　自然環境 2　伝統行事と生活・文化の変化 3　稲作と畑作への工夫や努力 4　果樹栽培と水産業の工夫や努力 5　工業の発展と変化	a:地図や写真などから、東北地方の自然環境や文化などの特色、産業の変化を読み取り、地域的特色や課題を理解している。 b:東北地方の人々の生活や文化、産業の発達と、自然環境や交通網の広がりなどさまざまな事象を関連付けて多面的・多角的に考察し表現している。 c:　東北地方について、よりよい社会の実現を視野に地域的特色とともに課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
三学期		第7節　北海道地方 1　自然環境 2　人々の生活 3　稲作の工夫と努力 4　畑作、酪農、漁業 5　観光業	a:北海道地方の冷涼な気候の特色を理解し、厳しい自然環境のなかで暮らす人々の生活の工夫や自然環境を生かして発展させてきた産業の特色を理解している。 b:冷涼な自然環境の影響を受ける人々の生活や産業の特色を、他地域との結びつきや厳しい自然環境を克服するための工夫など、さまざまな事象を関連付けて、多角的に考察し表現している。 c:　北海道地方について、よりよい社会の実現を視野に地域的特色とともに課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
二学期	近世の日本と世界	1 中世から近世へ 2 江戸幕府の成立と東アジア 3 産業の発達と元禄文化 4 幕府政治の改革と農村の変化	a: ・近世の日本の大きな流れを，世界の歴史を背景に，時代の特色をふまえて理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 b:交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，近世の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し，表現している。 c: 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して，近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 近世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認，調整しようとするとともに，近世の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	J1003

令和５年度　社会科

学年	3	週授業コマ数	4	授業時数(45 分)		標準授業時数(50 分)	140
使用教科書	新編　新しい日本の歴史（日本文教出版） 新しい社会　公民（東京書籍）						
副教材等	中学歴史資料集　学び考える歴史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

公民という言葉を国語辞典で調べると、「公務に参加する権利・義務を持つ者」とあります。簡単に言えば、「社会の中で生活していくすべての人々」のことになり、中学生も当然その一人に入ります。よって、公民の授業では、みなさんがこれから生きて行く上で必要な様々なことを学習していきます。現在の世の中は、人権・環境・政治・国際化などの課題や問題が多々あります。それに対応できる教養・知識を身につけ、正しい価値判断ができるための基礎をしっかり主体的に学習しましょう。ぜひ，普段から新聞やニュースなどを見るように心がけてください。また、１年間かけて探究活動として「卒業レポート」に取り組みます。「持続可能な社会」をめざすための現代社会の課題を１人１人が考え、テーマを設定しましょう。みなさんの発表を楽しみにしています。１年間、一緒に頑張りましょう。

・1 学期の前半（6 月ごろまで）は歴史的分野の学習を行います。
・授業では、課題に対して、諸資料をもとに自ら考えたり、調べたりしたうえで、周りの人と協同で考える活動を行います。
・テーマを設定し、調べたり意見を発表したりする活動も行います。
・授業中のノートは板書を写すだけではなく、自分の意見をメモや他者の意見のメモを取り、自身の思考の変化を記録しておきましょう。
・中高合同授業ではテーマを設定しディベートを行い、根拠にもとづいて論理的に考える力を養います。
・中学校 3 年間の総復習として、総まとめ問題集に取り組みます。総まとめ問題集は定期的に提出してもらいます。
・探究活動として「卒業レポート」に取り組みます。「課題設定」「調査・分析」「まとめ」「発表」の手順で持続可能な社会とは何かを考え、SDGｓについても考察します。

2　学習の到達目標

【歴史的分野】

(1)我が国歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2)歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3)歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

【公民的分野】

現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することをめざす。

(1)個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動の関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の国土を歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、それを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	日本の近代化	1 欧米の発展とアジアの植民地化 2 近世から近代へ 3 近代国家へのあゆみ 4 立憲制国家の成立 5 日清・日露の戦争と東アジアの動き 6 近代の日本の社会と文化	a:近代（前半）の日本の大きな流れを，世界の歴史を背景に，時代の特色をふまえて理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 b:工業化の進展と政治や社会の変化，明治政府の諸改革の目的，議会政治や外交の展開，近代化がもたらした文化への影響などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，近代（前半）の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し，表現している。 c:資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して，近代（前半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
	二度の世界大戦と日本	1 第一次世界大戦と戦後の世界 2 大正デモクラシーの時代 3 世界恐慌と日本 4 第二次世界大戦と日本	a:近代（後半）までの日本の大きな流れを，世界の歴史を背景に，時代の特色をふまえて理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 b:経済の変化の政治への影響，戦争に向かう時期の社会や生活の変化，世界の動きと日本との関係などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，近代（後半）の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し，表現している。 c:資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して，近代（後半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

一学期	現代の日本と世界	1 平和と民主化 2 冷戦下の世界と経済大国化する日本 3 グローバル化と日本の課題	a:現代の日本の大きな流れを，世界の歴史を背景に，時代の特色をふまえて理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 b: 敗戦前後の社会の変化や冷戦体制下の日本と世界との関わりに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことについて多面的・多角的に考察し，表現している c:資料から戦争中や敗戦直後，現在のようすを比較することを通して，現代の日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期	第1章 現代社会と私たち	1節 現代社会の特色と私たち 1 持続可能な社会に向けて 2 グローバル化 3 少子高齢化 4 情報化	a:現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解している。 b:位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、現代日本の特色を考察し、表現している。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
		2節 私たちの生活と文化 1 私たちの生活と文化の役割 2 伝統文化と新たな文化の創造 3多文化共生を目指して	a:現代社会における文化の意義や影響について理解している。 b: 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と想像の意義について考察し、表現している。 c:文化の特色について、自らの学習を振り返りながら主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		3節 現代社会の見方や考え方 1 社会集団の中で生きる私たち 2 決まりを作る目的と役割 3 効率と公正 4 決まりの評価と見直し	a:現代社会の見方・考え方の基礎となる、対立と合意・効率と公正について理解している。 b:対立と合意、効率と公正に着目して、社会に生活における決まりの役割などを考察し、表現している。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

		1節　人権と日本国憲法 1　人権の歴史と憲法 2　日本国憲法とは 3　国民主権と私たちの責任 4　平和主義の意義と役割 5　基本的人権と個人の尊重	a:日本国憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則を理解している。 b:人権と日本国憲法について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:日本国憲法の意義について自らの学習を振り返り主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		2節　人権と共生社会 1　平等権①　共生社会 2　平等権②　共生社会 3　自由権　自由に生きる権利 4　社会権　豊かに生きる権利 5　人権保証のための権利 6「公共の福祉」と国民の義務	a:人間の尊重についての考え方を基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。 b:日本国憲法において人権保障が大切にされている理由を多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		3節　これからの人権保障 1　新しい人権① 2　新しい人権② 3　グローバル社会と人権	a:社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むために大切なことを理解している。 b:社会の変化に伴い新しい人権が認められてきた理由について、多面的・多角的に考察し表現している。 c:社会の変化に伴う新しい人権について自らの学習を振り返り主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		1節　現代の民主政治 1　政治と民主主義 2　選挙の意義と仕組み 3　政党の役割 4　マスメディアと世論 5　選挙の課題と政治参加	a:議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在りかたについて理解している。 b:現代の民主政治について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 c:民主政治と政治参加について、自らの学習を振り返り主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

二学期		2節　国の政治の仕組み 1　国会の地位と仕組み 2　法律や予算ができるまで 3　行政を監視する国会 4　行政の仕組みと内閣 5　行政の役割と行政改革 6　裁判所の仕組みと働き 7　裁判の種類と人権 8　裁判員制度と司法改革 9　三権の抑制と均衡	a:国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましと、行政、司法の関わりを理化している。 b:国民の政治参加と三権それぞれの関わりを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 c:民主政治と政治参加について、自らの学習を振り返り主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		3節　地方自治と私たち 1　私たちの生活と地方自治 2　地方自治の仕組み 3　地方公共団体の課題 4　住民参加の拡大	a:地方自治の基本的な考え方について理解している。地方公共団体の仕組み、住民の権利や義務についても理解している。 b:地方自治と私たちの関わりについて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 c:民主政治と政治参加について、自らの学習を振り返り主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		1節　消費生活と市場経済 1　私たちの消費生活 2　契約と消費生活 3　消費者の権利 4　消費生活を支える流通	a:事例や統計資料などを収集・選択し、読み取る学習を通して、身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。 b:消費生活と市場経済について、多面的・多角的に考察し、思考・判断したことを説明したりそれらをもとに議論したりしている。 c:市場の働きと経済について理解し、自らの学習を振り返り主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		2節　生産と労働 1　生産活動と企業 2　企業の種類 3　株式会社の仕組み 4　労働の意義と権利 5　労働環境の変化と課題	a:現代の生産などの仕組みや働き、銀郎の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解している。 b:生産と労働について、多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したりしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

二学期		3節　市場経済の仕組みと金融 1　市場経済と価格 2　価格の働き 3　貨幣の役割と金融 4　私たちの生活と金融機関 5　景気と金融政策 6　グローバル経済と金融	a:市場経済の基本的な考え方について理解している。市場における価格の決まり方や資源の分配について理解している。 b:市場経済の仕組みと金融について、現代社会の生活と関連付けて、多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したりしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		4節　財政と国民の福祉 1　私たちの生活と財政 2　財政の役割と課題 3　社会保障の仕組み 4　少子高齢化と財政	a:社会資本の整備・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護についてそれらの意義を理解している。 b:財政における国や地方公共団体の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		5節　これからの経済と社会 1　公害の防止と環境の保全 2　経済の持続可能性	a:公害の防止など環境保全について、その意義を理解している。 b:環境保全や、経済の持続可能性における国や地方公共団体の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 c:国民の生活と政府の役割について自らの学習を振り返り主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察
二学期		1節　国際社会の仕組み 1　国際社会における国家 2　領土をめぐる問題の現状 3　国際連の仕組みと役割 4　地域主義の動き 5　新興国の台頭と経済格差	a:世界平和の実現と人類の福祉の増大のために国際協調の観点と互いの主権の尊重が重要であることを理解している。領土、国家主権、国際連合の働きなど基本的事項について理解している。 b:国際社会の仕組みと、国際社会における我が国の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 c:世界平和と人類の福祉の増大について、自らの学習を振り返り主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 ノート	ノート 観察

三学期		2節　さまざまな国際問題 1　地球環境問題 2　資源･エネルギー問題 3　貧困問題 4　新しい戦争 5　難民問題	a:地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。 b:さまざまな国際問題における我が国の役割について多面的･多角的に考察、構想し、表現している。	定期考査 卒業レポート	定期考査 卒業レポート	卒業レポート 観察
三学期		3節　これからの地球社会と日本 1　世界と協力する日本 2　よりよい地球社会を目指して	a:世界平和の実現と人類の福祉の増大のために国際協調の観点と互いの主権の尊重が重要であることを理解している。 b:国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 c:世界平和と人類の福祉の増大について、自らの学習を振り返り主体的に社会に関わろうとしている。	定期考査 卒業レポート	定期考査 卒業レポート	卒業レポート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度